

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査目的	3
2. 調査設計	3
3. 調査項目	3
4. 回収結果	3
5. 地域区分	4
6. 報告書の見方	5
7. 標本誤差	6
II 回答者の属性	7
III 調査結果	15
1. 定住意向	17
(1) 八王子市に住んで良かったと思うか	17
(2) まちの魅力をどの程度おすすめしたいか	20
(3) まちのために活動したいと思うか	21
(4) まちのために活動する人への応援や感謝	23
(5) 市のブランドメッセージの周知度	24
(6) 定住意向	25
(7) 住み続けたい理由	28
(8) 市外へ移りたい理由	31
(9) 住まいの相続・継承の見通し	34
(10) 空き家で一番困っていること	36
(11) 生活環境の評価	38
2. 市政情報の入手方法と効果的な発信について	44
(1) 市政情報の入手方法	44
(2) 市の情報発信に関する意見（自由意見）	47
3. 「八王子未来デザイン2040」の施策指標等に関する調査	48
(1) 都市の美観が保持されたまち	48
(2) 八王子の魅力	50
(3) 「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか	53
(4) 「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」の有無	55
(5) 「歩きたくなるまち」になっていると思うか	57
(6) 若者の居場所になっているか	59

(7) 市民協働の進捗状況	61
(8) 地域コミュニティ活動への参加状況	63
(9) 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無	66
(10) 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無	69
(11) 地域での交流や活動による充実感や生きがい	71
(12) ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度	74
(13) ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度	78
(14) この1年間に行った学習・余暇活動	85
(15) 生涯学習環境が整っていると思うか	90
(16) 学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験の活用方法	93
(17) 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか	97
(18) かかりつけの医療機関の有無	99
(19) 「高齢者あんしん相談センター」の周知度	101
(20) 「はちまるサポート」の認知度	103
(21) 障害のある方への理解や配慮	105
(22) 健康のために心がけていること	107
(23) 1週間のうち、10分以上続けて歩く日数	110
(24) 1日の平均的な歩行時間と平均歩数	113
(25) 10分以上続けて歩く日の主な外出目的	118
(26) この1年間の運動頻度	121
(27) 週1回以上運動しなかった理由	124
(28) この1年間に関わったスポーツを支える活動	127
(29) パラスポーツへの関心	130
(30) 「安心して子育てができるまち」になっていると思うか	133
(31) 子育てを支える環境が整っていると思うか	136
(32) 子育てに関して相談できる人（場所）の有無	139
(33) 子どもや保護者とともに行う活動への参加状況	142
(34) 地域と子どもたちとのかかわりあい	146
(35) 「災害につよいまち」になっていると思うか	148
(36) 食料の備蓄の有無	151
(37) 食料の備蓄量	153
(38) 飲料水の備蓄の有無	155
(39) 飲料水の備蓄量	157
(40) 地域の防災訓練への参加状況	160
(41) 『災害時の避難場所』の共有	162
(42) 『災害時の安否確認の方法』の共有	164
(43) 災害時の災害情報の入手方法	166
(44) 運転免許保有状況と運転頻度	169
(45) 市内の交通渋滞緩和	172

(46) 公共交通の利便性の満足度	174
(47) 大学等のまちづくりへの活用	176
(48) 八王子に関連する文化芸術に触れる機会	178
(49) この1年間の文化芸術活動への参加頻度	180
(50) この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況	182
(51) 日本遺産認定の周知度	185
(52) 日本遺産構成文化財の周知度	187
(53) 日本遺産や歴史文化などにふれる地域行事・活動への参加状況	190
(54) 誰もが活躍できる環境が整っていると思うか	192
(55) 外国人と交流したいと思うか	194
(56) 男女共同参画社会の実現度	196
(57) 自然と触れ合う機会の有無	208
(58) 「生物多様性」の周知度	210
(59) 「生物多様性」に配慮したライフスタイルとして行ったこと	212
(60) 自然、歴史、文化が生かされた景観	215
(61) 地球環境への配慮	217

4. 市政への要望 219

(1) 窓口サービスの満足度	219
(2) 重点施策要望	221

IV 調査票..... 227

I 調査の概要

1. 調査目的

この調査は、市民の生活意識、市の施策に対する評価及び市政への要望を把握し、本市の市政運営の資料として活用することを目的とする。

2. 調査設計

- (1) 調査地域：八王子市内全域
- (2) 調査対象：市内在住の満18歳以上の男女個人
- (3) 対象者数：5,000人
- (4) 調査方法：郵送配布／郵送または電子申請（パソコン・スマートフォン等を利用）による回収
- (5) 調査期間：令和6年（2024年）10月29日～11月12日
- (6) 抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出法
 - ・層 化…「八王子未来デザイン2040」で示された6地域・14管内の調査対象人口に応じて調査数を比例配分
 - ・対象者抽出…14管内別に単純無作為抽出
- (7) 調査機関：株式会社タイム・エージェント

3. 調査項目

- (1) 定住意向
- (2) 市政情報の入手方法と効果的な発信について
- (3) 「八王子未来デザイン2040」の施策指標等に関する調査
- (4) 市政への要望

4. 回収結果

対象者数：5,000人

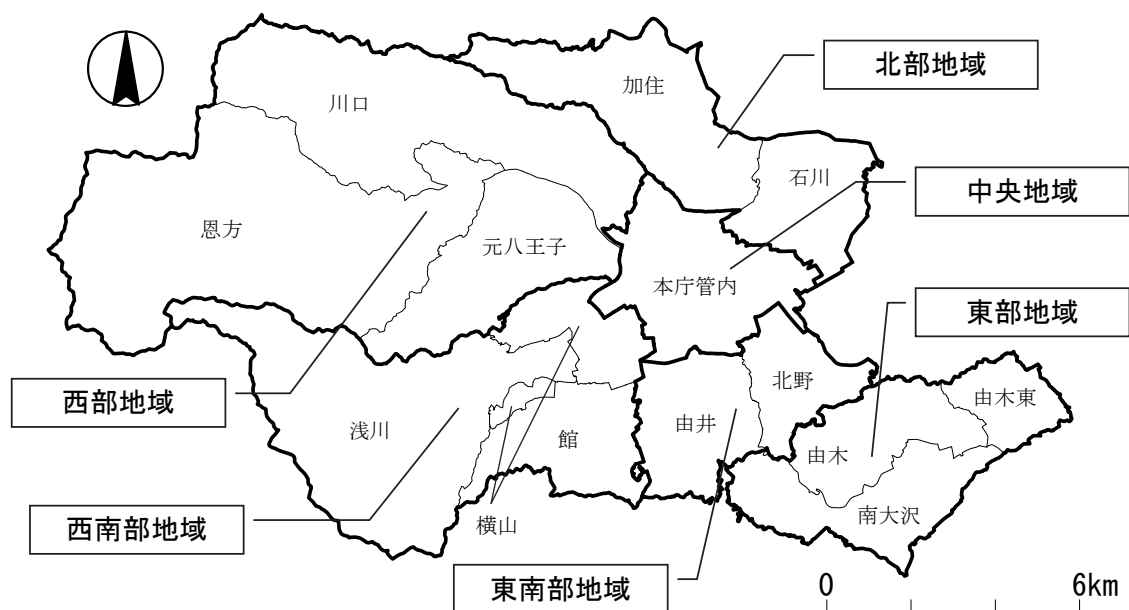
有効回収数：2,350票（有効回収率47.0%）

回収方法別内訳：

回収方法	有効回収数	内訳
郵送回収	1,561	66.4%
電子申請	789	33.6%
合 計	2,350	100.0%

5. 地域区分

〔本調査における地域区分〕



※八王子市都市政策研究所が作成したものに
広聴課が一部加筆

地域区分	町名（五十音順）
本庁管内 （中央地域）	暁町・旭町・東町・上野町・追分町・大横町・大和田町・小門町・清川町・子安町・新町・千人町・台町・田町・寺町・天神町・中町・中野上町・中野山王・中野町・八幡町・日吉町・平岡町・富士見町・本郷町・本町・三崎町・緑町・南新町・南町・明神町・元本郷町・元横山町・八木町・八日町・横山町・万町
元八王子・恩方・川口 （西部地域）	泉町・犬目町・小津町・叶谷町・上壺分方町・上恩方町・上川町・川口町・川町・下恩方町・諏訪町・大楽寺町・檜原町・西寺方町・式分方町・美山町・元八王子町・横川町・四谷町
浅川・横山・館 （西南部地域）	裏高尾町・大船町・櫛田町・散田町・城山手・高尾町・館町・寺田町・甘里町・長房町・並木町・西浅川町・狭間町・初沢町・東浅川町・南浅川町・めじろ台・山田町
加住・石川 （北部地域）	石川町・宇津木町・梅坪町・大谷町・尾崎町・加住町・久保山町・小宮町・左入町・平町・高倉町・高月町・滝山町・丹木町・戸吹町・丸山町・みつ台・宮下町・谷野町
由井・北野 （東南部地域）	打越町・宇津貫町・片倉町・北野台・北野町・絹ヶ丘・小比企町・長沼町・七国・西片倉・兵衛・みなみ野
由木・由木東・南大沢 （東部地域）	大塚・鹿島・上柚木・越野・下柚木・中山・南陽台・東中野・別所・堀之内・松が谷・松木・南大沢・鑓水

6. 報告書の見方

- (1) 集計は、小数第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100%ちょうどにならない場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 基数となるべき実数は、n(件数)として表示した。その比率は、n(件数)を100%として算出した。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) クロス集計による分析では、性別や年齢などの分析項目の質問に無回答である回答者の集計結果は図表中に表示していないが、これらの回答結果は図表中の「全体」には含まれる。したがって、図表中に示した分析項目すべてのn(件数)を合計しても、全体のn(件数)と一致しない場合がある。また、クロス集計の分析項目は、性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別・職業別としている。
- (6) 調査結果の分析においては、n(件数)が30件を下回る場合には、参考値とみなし該当属性に対するコメントは控えている。
- (7) 割合の表現については、以下の表記を基本とする。

<例>

表記	4割	約4割	4割強	4割台半ば	5割近く	5割弱
割合	40.0%	40.1～40.9%	41.0～43.9%	44.0～45.9%	46.0～48.9%	49.0～49.9%

また、質問における選択肢を統合し、《 》を用いて記述している場合がある。なお、この場合の比率は、個々の選択肢の比率の単純合計である。

<例>「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を統合して《そう思う》。

7. 標本誤差

標本誤差（サンプル誤差）はおおよそ以下のとおりである。

単純無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数（ n ）、および回答比率（ P ）によって異なる。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数（サンプル数）
 P = 回答比率

例えば、ある設間の回答者数が2,350で、その設間の「良い」の回答比率が20%である場合、標本誤差は20%を中心に±1.65%の範囲内となり、標本誤差を踏まえた回答比率は18.35%～21.65%の間であるとみることができる。

同様に計算した標本誤差の早見表を以下に示す。

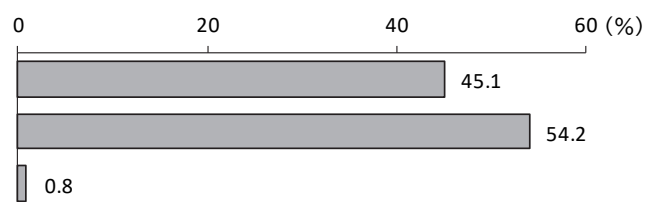
回答比率（ P ） 基数（ n ）	5%または 95%前後	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
2,350	± 0.90	± 1.24	± 1.65	± 1.89	± 2.02	± 2.06
2,200	± 0.93	± 1.28	± 1.71	± 1.95	± 2.09	± 2.13
2,000	± 0.97	± 1.34	± 1.79	± 2.05	± 2.19	± 2.24
1,500	± 1.13	± 1.55	± 2.07	± 2.37	± 2.53	± 2.58
1,000	± 1.38	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
500	± 1.95	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出している。この表の計算式の信頼度は95%である。

Ⅱ 回答者の属性

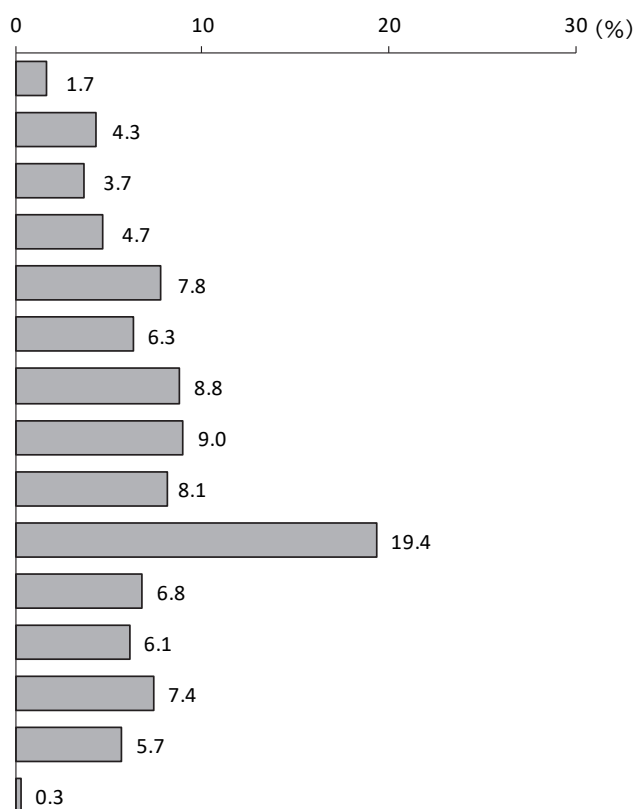
1. 性別

	基数 (人)	構成比 (%)
男性	1,059	45.1
女性	1,273	54.2
無回答	18	0.8
合計	2,350	100.0



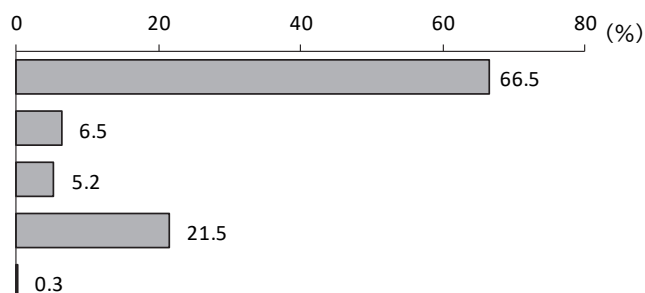
2. 年齢

	基数 (人)	構成比 (%)
18～19歳	39	1.7
20～24歳	101	4.3
25～29歳	88	3.7
30～34歳	110	4.7
35～39歳	184	7.8
40～44歳	148	6.3
45～49歳	207	8.8
50～54歳	211	9.0
55～59歳	191	8.1
60～64歳	455	19.4
65～69歳	159	6.8
70～74歳	144	6.1
75～79歳	174	7.4
80歳以上	133	5.7
無回答	6	0.3
合計	2,350	100.0



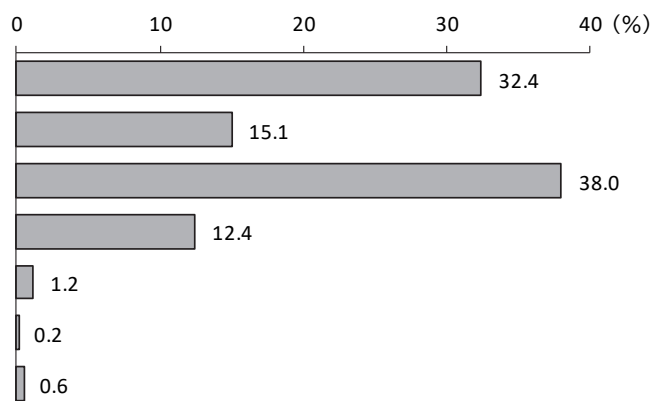
3. 配偶者の有無

	基数 (人)	構成比 (%)
いる	1,563	66.5
いない(離別)	152	6.5
いない(死別)	122	5.2
結婚したことはない(未婚)	506	21.5
無回答	7	0.3
合計	2,350	100.0



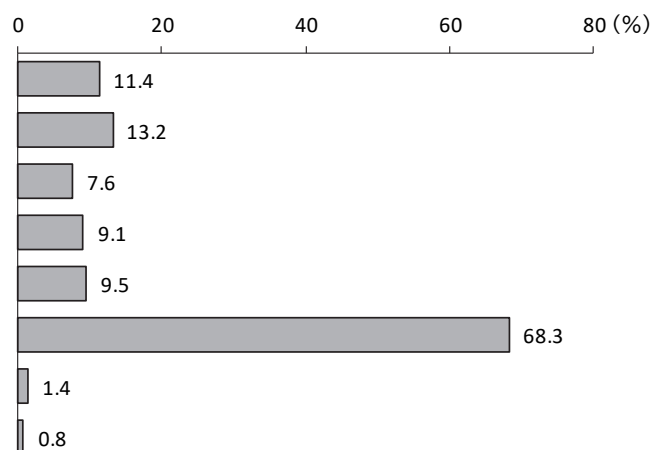
4. 子どもの人数

	基数 (人)	構成比 (%)
いない	762	32.4
1人	356	15.1
2人	894	38.0
3人	292	12.4
4人	28	1.2
5人以上	5	0.2
無回答	13	0.6
合計	2,350	100.0



4-1. 子どもの成長段階(複数回答)

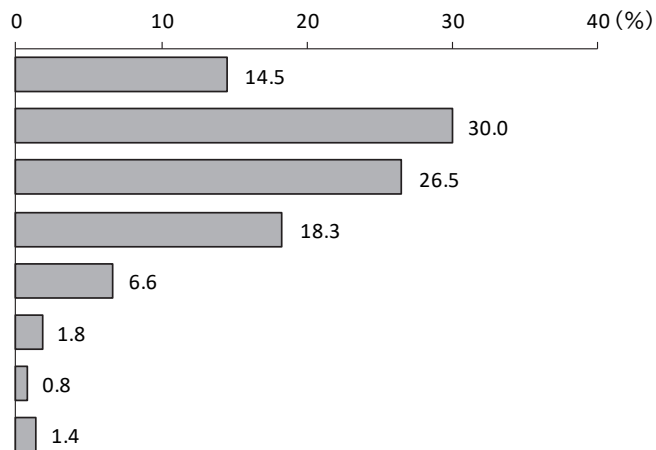
	基数 (人)	構成比 (%)
0歳～小学校入学前	180	11.4
小学生	208	13.2
中学生	119	7.6
高校生	143	9.1
大学生(専門学校等を含む)	150	9.5
学校教育終了(成人・社会人など)	1,076	68.3
その他	22	1.4
無回答	13	0.8
合計	1,575	100.0



※複数回答につき合計は1,911人であるが、回答者数1,575人を基数として構成比を算出した。

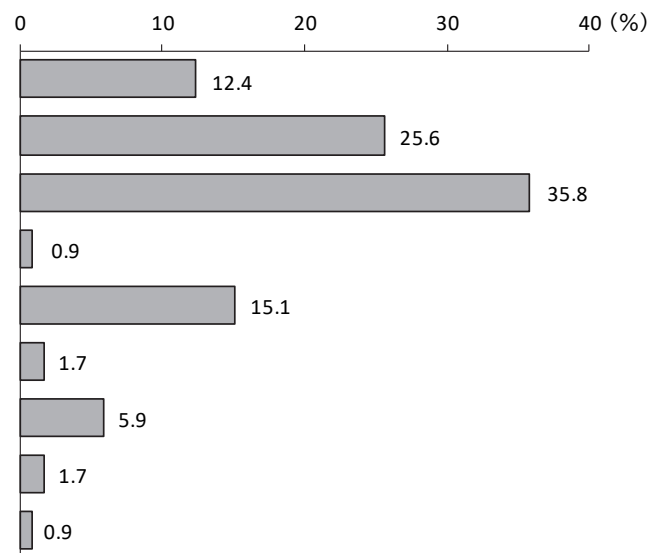
5. 同居人数

	基数 (人)	構成比 (%)
1人	340	14.5
2人	706	30.0
3人	623	26.5
4人	431	18.3
5人	155	6.6
6人	42	1.8
7人以上	19	0.8
無回答	34	1.4
合計	2,350	100.0



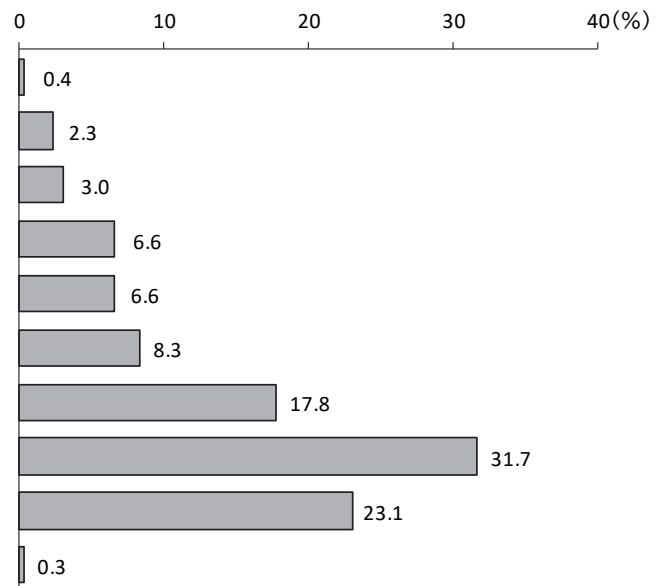
6. 世帯構成

	基数 (人)	構成比 (%)
ひとり暮らし	292	12.4
配偶者とふたり暮らし(事実婚も含む)	602	25.6
自分たち夫婦と未婚の子ども (または、自分と未婚の子どもなど)	841	35.8
自分たち夫婦と子ども夫婦 (または、自分と子ども夫婦など)	22	0.9
親と自分のみ (または、親と自分と兄弟・姉妹など)	354	15.1
親と自分たち夫婦	39	1.7
三世代(例えば、自分たち夫婦と子どもと孫、親と自分と子どもなど)	138	5.9
その他(四世代など)	41	1.7
無回答	21	0.9
合計	2,350	100.0



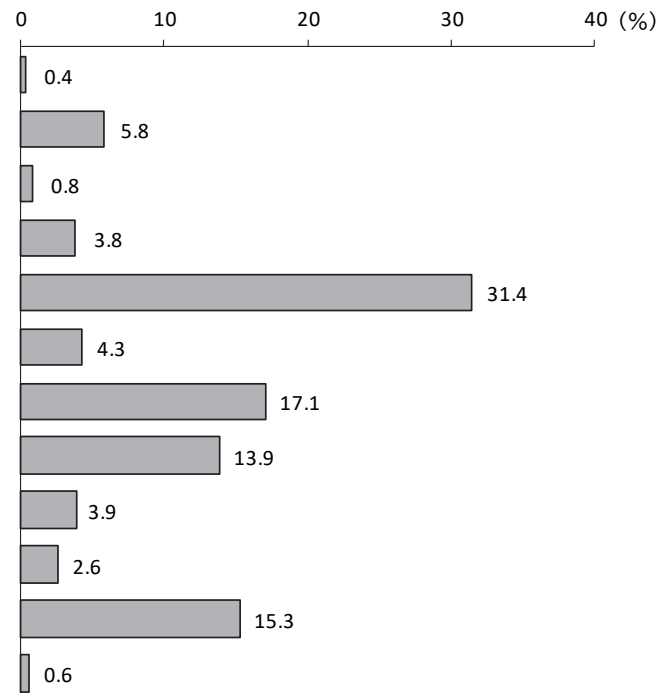
7. 居住年数

	基数 (人)	構成比 (%)
1年未満	9	0.4
1～3年未満	53	2.3
3～5年未満	71	3.0
5～10年未満	154	6.6
10～15年未満	155	6.6
15～20年未満(転入して以来)	196	8.3
20～30年未満(転入して以来)	419	17.8
30年以上(転入して以来)	744	31.7
生まれてからずっと	542	23.1
無回答	7	0.3
合計	2,350	100.0



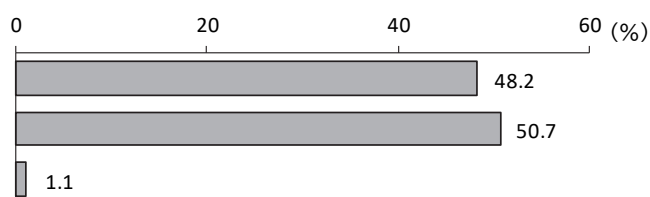
8. 職業

	基数 (人)	構成比 (%)
農・林・漁業	10	0.4
自営業	137	5.8
自由業 (開業医、弁護士、司法書士など)	19	0.8
会社や団体の役員	90	3.8
会社・商店・サービス業などの勤め人	737	31.4
教員・公務員	101	4.3
アルバイト・パート	401	17.1
(専業)主婦・主夫	326	13.9
学生	92	3.9
その他	62	2.6
無職	360	15.3
無回答	15	0.6
合計	2,350	100.0



8－1. 仕事場

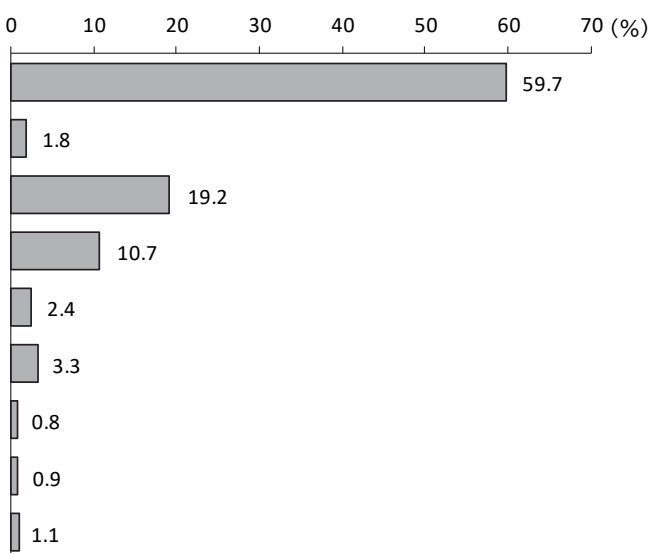
	基数 (人)	構成比 (%)
八王子市内	721	48.2
八王子市外	758	50.7
無回答	16	1.1
合計	1,495	100.0



※職業の回答者のうち、(専業)主婦・主夫、学生、その他、無職、無回答を除いた方に対する質問。

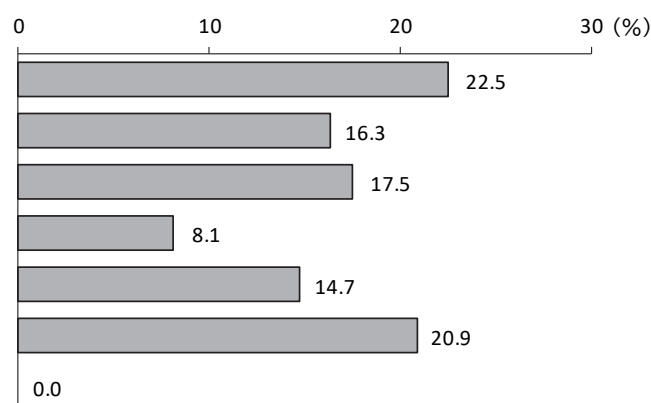
9. 居住形態

	基数 (人)	構成比 (%)
戸建て(持ち家)	1,403	59.7
戸建て(借家)	43	1.8
分譲マンション	452	19.2
民間の賃貸アパート・マンション	251	10.7
公営賃貸住宅(都営・市営)	56	2.4
UR(旧公団)・公社の賃貸住宅または都民住宅	77	3.3
社宅・官舎・寮	19	0.8
その他(間借りなど)	22	0.9
無回答	27	1.1
合計	2,350	100.0



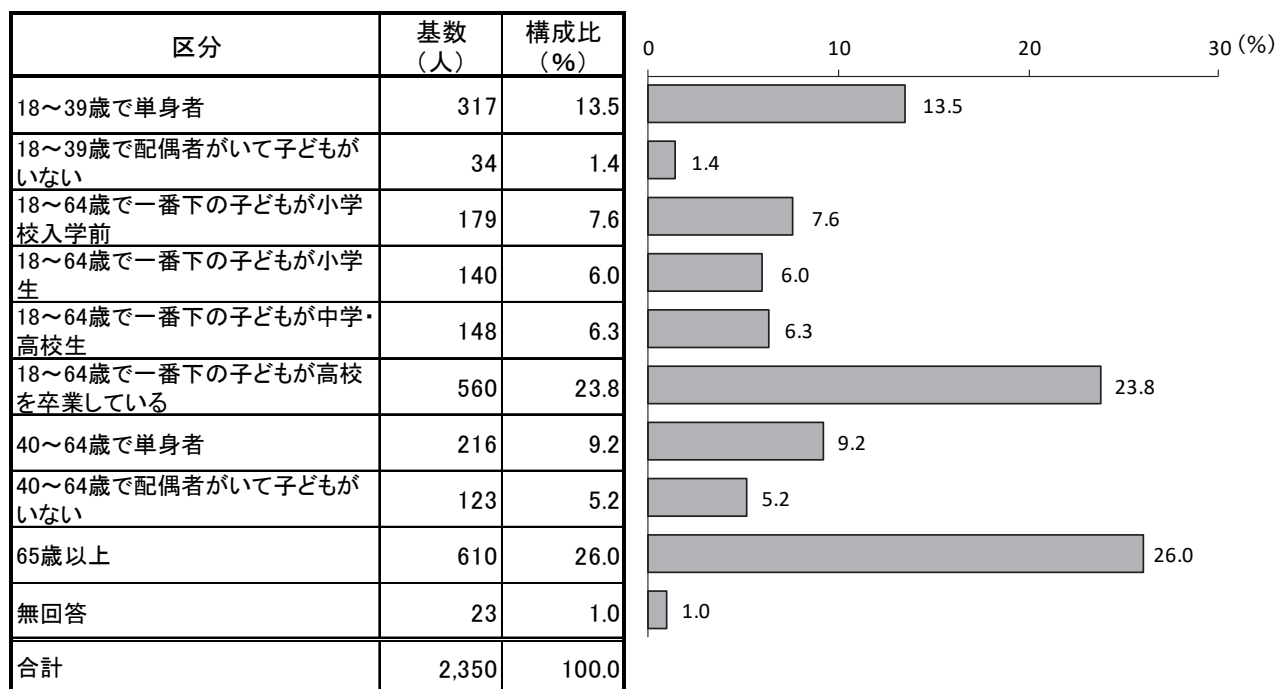
10. 居住地域

	基数 (人)	構成比 (%)
本庁管内(中央地域)	528	22.5
元八王子・恩方・川口(西部地域)	383	16.3
浅川・横山・館(西南部地域)	412	17.5
加住・石川(北部地域)	191	8.1
由井・北野(東南部地域)	345	14.7
由木・由木東・南大沢(東部地域)	490	20.9
無回答	1	0.0
合計	2,350	100.0

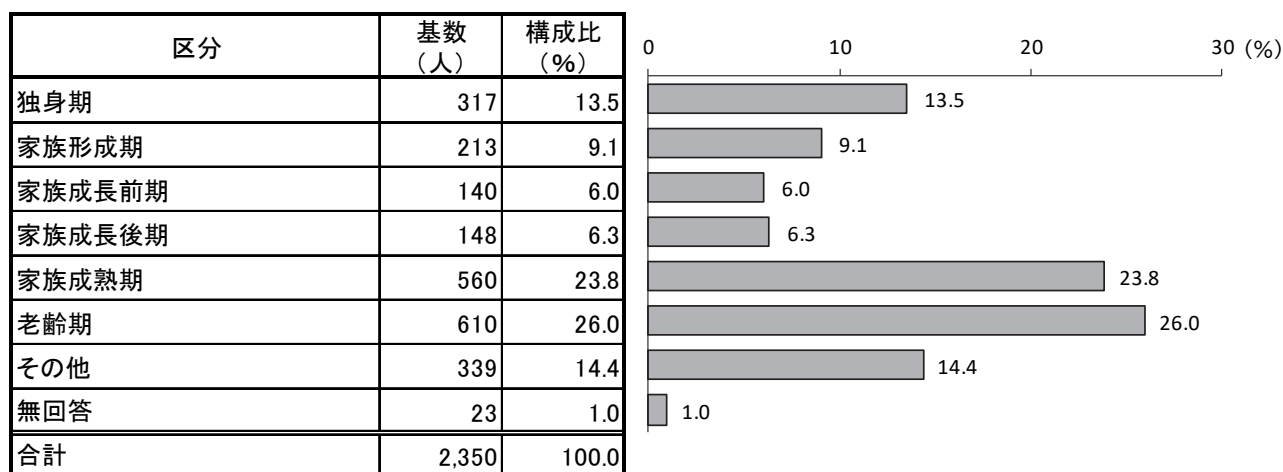


11. ライフステージ

「2. 年齢」「3. 配偶者の有無」「4. 子どもの人数」「4-1. 子どもの成長段階」により、ライフステージの区分を作成。



■ ライフステージ（集約型）



■ ライフステージ区分

独 身 期	18～39歳で単身者
家 族 形 成 期	18～39歳で配偶者がいて子どもがいない または、18～64歳で一番下の子どもが小学校入学前
家 族 成 長 前 期	18～64歳で一番下の子どもが小学生
家 族 成 長 後 期	18～64歳で一番下の子どもが中学・高校生
家 族 成 熟 期	18～64歳で一番下の子どもが高校を卒業している
老 齢 期	65歳以上
そ の 他	40～64歳で単身者 または、40～64歳で配偶者がいて子どもがいない